

[取組みの方向性4] 世界とつながる新たな熊本の創造 ～世界に挑み、世界を拓く～

[施策12] 空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化

(1)現状と課題		(2)概要					(3)施策体系						(4)県民アンケート結果																							
台湾高雄線・香港線の定期便就航や、多くのクルーズ船の寄港、増加し続ける熊本港のコンテナ取扱量など、海外との交流等を着実に進めてきました。しかし、熊本地震により、香港及びソウルとの国際航空路線の運休が続くなど、海外との人や物の往来に影響が及んでいます。このため、阿蘇くまもと空港及び熊本港・八代港の復旧や運休した路線の再開、人流・物流機能の更なる向上や、災害時に支援活動等の拠点となるための機能強化が必要です。		<p>「大空港構想NextStage」に基づき、熊本地震により被害を受けた阿蘇くまもと空港の復旧・機能強化やアクセス向上、空港周辺地域の活性化に取り組みます。</p> <p>また、八代港への年間70隻以上のクルーズ船寄港を実現するため港湾機能の向上を図るとともに、熊本港も含めた耐震強化岸壁の整備や航路の増便等を進め、海外展開の拠点化を推進します。</p>					<p>「大空港構想NextStage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充 【担当部局:知事公室・企画振興部・土木部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H28</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H29</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td></td> <td>9</td> <td>471,453千円</td> <td></td> <td>8</td> <td>606,036千円</td> </tr> </table>						H28	事業数	決算額	H29	事業数	予算額		9	471,453千円		8	606,036千円	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>											
H28	事業数	決算額	H29	事業数	予算額																															
	9	471,453千円		8	606,036千円																															
<p>★重要業績評価指標(KPI)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>策定時</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>323 (H27)</td> <td>298 <78.4%></td> <td></td> <td></td> <td>380 [万人(単年)]</td> </tr> </tbody> </table>		策定時	H28	H29	H30	目標値	323 (H27)	298 <78.4%>			380 [万人(単年)]	<p>熊本地震により国内線旅客便が4月17日から6月1日まで全便又は一部運休となったことなどから、対前年度比92.4%に減少した。なお、国内線利用者数は、12月以降、概ね前年を上回っており、国際線利用者数もソウル線のチャーター便の運航や定期便就航などにより回復傾向にある。</p>					<p>熊本港・八代港の海外展開拠点化 【担当部局:商工観光労働部・農林水産部・土木部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H28</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H29</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td></td> <td>11</td> <td>2,098,693千円</td> <td></td> <td>12</td> <td>4,245,212千円</td> </tr> </table>						H28	事業数	決算額	H29	事業数	予算額		11	2,098,693千円		12	4,245,212千円	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>	
策定時	H28	H29	H30	目標値																																
323 (H27)	298 <78.4%>			380 [万人(単年)]																																
H28	事業数	決算額	H29	事業数	予算額																															
	11	2,098,693千円		12	4,245,212千円																															
<p>施策12 ①</p>	i 阿蘇くまもと空港利用者数 【施策5-①と同一】	12 (H27)	12 <17.1%>			70 [隻(単年)]	<p>熊本地震後クルーズ船のキャンセルが続く中、クルーズ船社等に県内各地域の観光資源を組み合わせた様々な観光ルートの提案を行った。その結果、H28年7月からクルーズ船の寄港が再開され、H27年と同数の寄港実績となった。</p>																													
	i クルーズ船寄港数	8,889 (H27)	7,396 <46.2%>			16,000 [TEU(単年)]	<p>熊本地震の影響で荷主企業の生産活動の回復が遅れたこと等により、H27年の実績より減少した。</p>																													
	ii 熊本港国際コンテナ貨物取扱量	18,151 (H27)	18,980 <67.8%>			28,000 [TEU(単年)]	<p>助成制度を活用した荷主企業へのポートセールスにより、H27年の実績より増加した。</p>																													
<p>施策12 ②</p>	iii 八代港国際コンテナ貨物取扱量																																			

【施策12】 空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化

No.	(5)平成28年度の主な成果	(6)問題点(隘路)・課題	(7)当該年度を含む今後の方向性
施策12 ①	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇くまもと空港について、新ビルの設計段階から民間の知恵・資金を活用するため、コンセッション方式の導入による十分な耐震性能を有する国内線・国際線ターミナルビルの一体的整備とその早期実現を国へ要請 国際線定期便の運休路線のうち、台湾線はH28年6月から定期便運航が再開、ソウル線はチャーター便がH29年1月～3月まで運航するとともに、H29年4月以降の運航も決定 空港へのアクセス向上等のため、国道443号の4車線化の測量設計を実施するとともに、県道堂園小森線については改良工事を実施(延長=600m) JR肥後大津駅に「阿蘇くまもと空港駅」という愛称を付けるとともに、JR豊肥本線と空港ライナーを利用して空港にアクセスできることを広くPR 	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇くまもと空港が熊本地震からの創造的復興のシンボルとなるよう、国が策定する実施方針等に地元意見を反映させていくとともに、空港運営について企業から提案が積極的になされるよう取り組むことが必要 外国人観光客等の増加を図るため、運休が継続している国際線の運行再開とともに、既存路線の増便や海外新規路線の誘致が必要 空港へのアクセス向上やリダンダンシー確保のため、国道443号や県道堂園小森線の早期整備が必要 空港利用者の利便性向上のため、空港アクセスの更なる改善が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の発展に資する空港運営の枠組みとなるよう国と積極的に協議するとともに、空港運営について魅力的な提案が多くなされるよう空港潜在的可能性、観光資源等を発信する説明会等を実施。また、国と連携し、H30年度末までの運営権者の選定やH31年度末までの国内線別棟ビル運営開始を目指す 積極的なエアポートセールスにより運休が継続している国際線の運航再開を図るとともに、国際線定期便の利用促進による既存路線の増便や更なる海外新規路線の誘致を実施 国道443号の4車線化や県道堂園小森線の整備を推進するとともに、国と調整し、阿蘇くまもと空港地下道の耐震化を推進 空港ライナーをスムーズに本格運行へと移行するとともに、その他公共交通網の充実に向けて検討
施策12 ②	<ul style="list-style-type: none"> 八代港において、水深10m岸壁等の受入環境の整備によりクルーズ船の2バースでの寄港を実現。また、国のH29年度新規事業として八代港国際クルーズ拠点整備事業が採択 熊本城や阿蘇地域が中心であったクルーズ船寄港時のバスツアーの訪問先が、旅行会社への働きかけにより、熊本地震後、八代城址や青井阿蘇神社をはじめとした県南地域へ拡大 八代港では、国のH29年度新規事業として八代港国際クルーズ拠点整備事業が採択されるとともに、調査など耐震強化岸壁の整備が推進 八代港について、ガントリークレーン二重化に向けた大型ガントリークレーンの整備やコンテナヤードの移設・拡充に取り組むとともに、必要な航路整備が推進 荷主企業の不安の払拭を図るため、上海等でセミナーを開催。八代港の国際コンテナ貨物取扱量は、H27年から7.1%増加してH28年は過去最高を記録。熊本港では、韓国・釜山間の国際コンテナ定期航路が週3便に増便され、利便性が向上 	<ul style="list-style-type: none"> クルーズ船の拠点となる人流ゾーンと、工業港としての物流ゾーンを別々に形成するなど、更なるクルーズ船受入環境の向上が必要 訪問先が限定的なため、クルーズ船の経済効果が地元経済に波及するような取組みや、クルーズ船内における県産品の活用のための具体的なニーズの把握が必要 災害時の支援活動の拠点としての機能を確保するとともに、人流・物流の機能向上を図るため、耐震強化岸壁の早期整備が必要 物流機能の向上等に向け、ガントリークレーンやコンテナヤード、航路等の早期整備が必要 コンテナ取扱量の増加を図るため、熊本港や八代港の更なる利便性の向上や荷主企業への働きかけが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 年間70隻以上のクルーズ船寄港を実現するとともに、将来的な年間200隻程度のクルーズ船の受入れを目指し、国、ロイヤル・カリビアン・クルーズ社と連携し、クルーズ船専用岸壁や旅客ターミナル等の人流ゾーンの整備を推進 クルーズ船寄港の効果が県内各地に波及するよう、企業とも連携し、県内の観光資源を活かしたツアーコースの多様化や、地元消費型旅行商品等の造成を推進。また、クルーズ船内における県産品のニーズを調査し、活用機会を創出 八代港では、H31年度末までの耐震強化岸壁の整備の完了を目指して事業を促進するとともに、熊本港については、耐震強化岸壁の整備を国に要望 H30年度初旬までのガントリークレーン の二重化やH29年度末までのコンテナヤード整備完了に向けて取り組むとともに、航路や保管施設等の整備を実現 引き続き、船社への積極的な誘致活動により航路増便や新規航路開設を図るとともに、コンテナ輸送の新規利用や利用拡大に向けて助成制度を活用した荷主企業へのポートセールスを実施